opusdei.org

## 聖ホセマリアの生涯 - 24

1935年、学生寮の運営は軌道に乗り始めます。ホセマリア・エスクリバーは、喜びと平和の雰囲気を保つため、寮内での政治討論を禁じます。

2023/10/14

## 過去の記事はこちらから

1935年の夏、聖ホセマリアは過労で倒れる寸前でした。ある友人が自分の田舎の別荘で休むよう勧めてくれましたが、新しくメンバーになった

アルバロたちにオプス・デイの精神を教えるためや他の仕事のため、暑いマドリードに留まり続けました。9月になって参加した黙想会の二日目のメモに「昨晩私は綿にようになりにで寝た。・・食事の一部を吐いた。まったくやる気がない。・・おはいるでも横になって二週間も寝た。・・をも横になって二週間も寝た。でも横になって二週間も寝るできなかった。またらう」とあります。一年以上、7時間続けて寝ることができなかったのです。

どの仕事を、昼の間に神父と寮長が することになりました。

大勢の学生が寮で勉強したり神父か ら霊的な指導を受けたりするために 来始めました。この頃に神父と知り 合った学生ホセ・ルイス・ムスキス (後にアルバロとホセ・マリア・ フェルナンデスとともに司祭にな る)はこう言われたそうです。「こ こでは政治的意見は尋ねられませ ん。・・・その代わりにもっと嫌な 質問をされるでしょう。祈りをして いるか。時間を活用しているか。親 を喜ばせているか。勉強している か、など。勉強は学生にとって重大 な務めだからしと。

神父は学生たちに寮での政治討論を 禁じました。政治や社会の問題には 大いに関心を払うべきですが、政治 については各自が自由に考え意見を 述べる権利があり、その意見によっ て差別や対立が生まれないようする ためです。教会が政府によって不当 に迫害されていた当時、政治の動向 は熱い議論の対象でした。そのよう な中で、寮には「喜びと平和、落ち 着いた雰囲気があり、別世界のよう だった」とある学生は言っていま す。

尾崎明夫

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/sei-josemaria-24/(2025/11/21)